2025 年 6 月 10 日(火)

親の学び場『聖塾(ひじりらぼ)』開催







思春期とは、子どもから大人へ、心と身体が変化し自我を確立していく時期です。個人差も程度差も大きいですが、勉強嫌いになったり、スマートフォンやゲームに依存するようになったり、大人や既存の社会に反発を覚えたりする、いわゆる「反抗期」を迎える時期でもあります。この年頃の子育てのただ中にいる親にとっては、その関わり方に悩むことも少なくありません。それゆえ、大切なことは「見守る」ことだとも言われます。しかし、頭で理解しても、日々の生活の中で実践することは難しくもあります。

こうした保護者の皆様を対象として、大きく変わりつつある社会や教育について共に学び、考える場として年に 3 ～ 4 回程度、「親の学び場」として校長主催の『聖塾』を開催しています。今年度は、第 1 回目を 6 月の保護者会に合わせて 6 月 7 日(土)に行いました。約 130 組 180 名を超える方々にご参加いただきました。

今回のテーマは、家庭内における「言葉の力」について。家庭で使っていい言葉、使ってはいけない言葉を中心に具体例を示しながらお話をしました。また、少子化と多様･多線化が進み、大きく変わりゆく大学入試選抜について、私が長年携わって来た進路指導の立場から大学選択についても触れました。

普段何気なく使っている言葉を見直し、子どもをポジティブな気持ちに導くヒント、親子の関わり方などについて学ぶ場としました。「見守る」こと、子どもの主体性を尊重することについては、多くの教育学者が発言しています。それに併せ、普段使っている言葉を見直し、

実際に我が子を目の前にした時に大切なことについて提案しました。

とりもなおさず、思春期の子を持つ親として何より大切なのは「子をよく見る」ことであり、兄弟姉妹や他人と比較せず、子どもを尊重した声かけの重要性について理解していただきたいと思います。

時には、親としての不安が先行して、既存のレールに導こうと強く迫りがちです。その一方で、親の言うことをなんでも聞く『素直ないい子』は、程度が過ぎると自己主張に欠け、悩みや挫折を自分で乗り越えられない依存の高い子になったり、不登校や引きこもり、摂食障害などにつながる可能性もあります。決して先回りせず、小さなことで構いませんから、主体的に考え、自らの意志で行動できる子育てを心がけたいものです。

石飛 一吉

参考図書
渡邉 雅子(2024)『論理的思考力とは何か』岩波新書, 208ページ.
白井 俊(2025)『世界の教育はどこへ向かうのか 能力・探究・ウェルビーング』中公新書, 215ページ.
宮口 幸治・田中 繁富(2025)『「頑張れない」子どもをどう導くか 社会につながる学びのための見通し、目的、使命感』ちくま新書, 168ページ.